

平成30年6月21日

東部農林振興センター松江農業普及部

標題 | 松江・八束くにびきキャベツ部会定期総会にて今後の取組を確認

(ダイジェスト)

6月19日、JA中海干拓研修センターにて松江・八束くにびきキャベツ部会（奥名昭一部会長、47名）定期総会が開催されました。事業報告の中で、加工用キャベツの高品質安定供給が評価されて、出荷先である（株）サラダクラブから最優秀産地表彰を受賞したことについて報告がありました。

定期総会には、生産者27名と関係機関が出席し、今年度の栽培管理、加工用キャベツを含めた販路及び安定供給、美味しまね認証、農薬適正使用、キャベツ営農塾の運営による担い手確保等の取組について確認しました。

総会の中で、JAしまね本店から出荷実績報告があり、平成29年度産は、出荷量757t（対前年比109）販売額96百万円（同140）と、天候不順により全国的な不作の状況下、品質の良さから前年度を上回る高単価で推移したことが報告されました。

また、加工用キャベツについては、今年4月に出荷先である（株）サラダクラブから最優秀産地表彰を受賞し、高品質安定供給産地として高い評価を受けたことが報告されました。

総会後の研修会では、美味しまね認証の推進に新規部会員を含めて部会全体で取り組むことを確認し、松江農業普及部が講師となり生産工程管理の具体的取組と農薬適正使用について研修を行いました。

揖屋干拓地の営農開始後、30年余の歴史を刻むキャベツ部会は、今後も安全安心なキャベツ供給産地としての維持発展に向けて決意を新たにす場となりました。



総会で安全安心なキャベツの安定供給を確認



GAPと農薬適正使用について研修を実施